

はじめに・・・募集要項では、天塩川流域市町村にお住まいの方の意見募集となっていますが、先日開催された説明会では、流域以外の住民は公聴会の公述人にはなれないが、意見をだすのはかまわないということで、意見を提出します。なお、天塩川は流域住民にとって重要なだけでなく、北海道全体にとっても重要なものなので、公述人から排除するのはすべきでないと考えます。

1. 寄せられた意見に対して真摯な対応をすべきです。

私は、第15回天塩川流域委員会以降の委員会を傍聴してきましたが、寄せられた意見や流域委員からの意見・質問に対する開発局の回答の中には、真摯に対応していないと思われるものがありました。はじめに開発局が想定したものがあり、それを説明しているにすぎず、結果として寄せられた意見を無視していると思われます。これでは住民等の意見を反映して作成すべき河川整備計画案はできないことになります。

今まで開発局は「寄せられた意見に対する開発局の考え方」をホームページで示していましたが、これも寄せられた意見の本旨を理解しないものや、寄せられた意見を無視している点が多々見受けられます。2月27日に開催される公聴会で出された意見も含めて寄せられた意見は、一般的に言われるパブリックコメントにあたります。開発局は、今まで述べてきた開発局の回答の中で真摯に回答していない部分と公聴会で出された意見に対して、一問一答えの形式で回答するようしてください。釧路湿原の再生問題で、釧路湿原再生全体構想作成にあたり寄せられたパブコメに対する回答が「釧路湿原再生全体構想に対するパブリックコメント結果一覧」(<http://www.kushiro-wetland.jp/pdf/table.pdf>)に掲載されています。これを見ると、すべてのパブコメに対して一問一答の形式で回答しています。この例を参考にして、真摯な対応をするよう要請します。

2. サンル川のサクラマス資源の重要性を真剣に考慮して、ダムによらない河川整備計画を作成してください。

流域委員会で[]委員から説明がありましたが、北海道の重要水産資源であるサクラマスは減少傾向にあり、この傾向はとまっていません。最近の北海道孵化場の調査研究では、サクラマス資源の減少は河川環境の悪化が主要な原因と考察しています。サクラマスは、シロザケなどと異なり、種苗生産-放流という人工的な手法では資源が増加しないことが示されています。したがって、サクラマス資源の維持は、現在の技術では河川環境の保全によらざるを得ない現状です。

サンル川は、サクラマス資源にとって極めて重要な河川であることは万人が認めているところです。なぜ天塩川流域でサンル川が特別にサクラマス資源が豊富なのかは明らかにされていませんが、河川の勾配、底質、水温その他の環境が、他の河川に比べてサクラマス・ヤマメにとって好適なものと推測されます。すでに述べましたように、サクラマス資源は放流では維持できません。したがって、貴重なサクラマス資源を維持するには、ダムによる影響をなくするか、ダムを作らないかの二つしか選択肢はありません。

開発局は、魚道の整備とスマOLT降下の改善で、サクラマス資源に影響を与えないようにすると述べていますが、これは単なる希望的観測でしかありません。開発局が当初成功例として紹介した、アメリカのコロンビア川では、魚道によって一定の量のサケ類が遡上しても、幼魚の降下がうまくいかず、バイパスや幼魚の車輸送の努力がされても、サケ資源は減少しています。他のサケマス類と異なり、より長く河川に留まるサクラマスではさらに状況は困難になることは容易に想像できます。

開発局に希望的観測をまったく否定することはできませんので、流域委員会で合意された順応的管理がなされることだと思います。よく言われるように、ダムが一度作られると、サクラマス資源が枯渇しても、ダムを壊すわけにはいかないという理屈が通ってしまい、資源には影響を与えるないと述べた行政や研究の担当者は何ら責任を問われないのが日本の実情です。したがって、もしダム建設を検討するとした場合には、サクラマス資源への影響がないかどうかを第三者が判断し、さらにサクラマス資源に影響を与えないという結論を出した人たちの責任のあり方（ダムを壊すようにする、職にあるある方は辞職する、職にない方は新聞広告などで謝罪する、などなど）を明らかにするようにすべきです。開発局は河川管理者がありますが、この場合は北海道の河川の素晴らしさに加えて沿岸漁業にも責任があることを銘記してください。

3. 名寄川の治水を真剣に考慮して、流域住民の生の声をよく聞いて、堤防の強化や河川改修

による治水とすべきです。

流域委員会の最後の数回で、名寄川の治水計画が過大な目標流量をもとに考えられている可能性が指摘されましたが、うやむやのまま委員会は終了しました。

私が問題だと見つけたのは、大きな責任をもつっていた流域委員会は、一度も自らの目で名寄川の治水の実態を見ていません。また名寄川流域に居住している人たちの意見を積極的に聴取していません。これで流域委員は責任を果たしたと言えるのでしょうか。流域委員会は傍聴していて、情けなくなりました。戦後最大の洪水に対応すると言いながら、戦後最大の洪水の実態について流域委員の方は自らの責任で何か調べたのでしょうか。

開発局は、シミュレーション（数値モデル）を用いて、こんなに大変な水害になりますよといふ開発図を示しましたが、シミュレーションは難解ですし、いろんな不確かな数字を用いている事が多く、それが正しいかどうかは第三者による評価が不可欠です。しかしそれはなされませんでした。それより、過去の洪水実態を見るのが一番正確なことです。私は地元のものではありますんで、聞いた話になりますが、戦後最大と言われる洪水時に、開発局が述べているようだ。ダムを作ることは、全国の例が示しているように、河川本流によって、治水効果が少ないので、天塩川本流にはほとんど寄与せず、高額な税金を使ってダムを作るより、名寄川の治水をどうするかで、流域住民と一緒に話し合って決めて、天塩川本流の治水はその場所の流域住民と話し合って決めていく、これが本来の河川管理の方法ではないのでしょうか。名寄川の治水をどうするのか、流域住民の声をよく聞いて、改めて河川整備計画案を作成するべきだと提案します。